J. Jpn. Soc. Soil Phys.
土壌の物理性
No. 129, p.55 ～ 56 (2015)

資　料
Miscellaneous

国際学会参加報告
— ASA, CSSA, & SSSA International Annual Meeting に参加して—

名倉理紗[1]・片野健太郎[1]

2014 年 11 月 2 日（日）から 2014 年 11 月 5 日（水）の日程で，アメリカ合衆国カリフォルニア州ロングビーチ市（Fig. 1）にあるロングビーチコンベンションセンターにおいて，ASA, CSSA, & SSSA International Annual Meeting が開催された．本学会は毎年異なるアメリカ国内の都市にて開催されている．ロングビーチにはその地名の通り，アメリカ西海岸沿いのビーチがあり，朝日・夕日を臨むのに絶好のスポットである（Photo 1）．

本学会は口頭発表・ポスター発表のセッション全てにおいて ASA（American Society of Agronomy），CSSA（Crop Science Society of America），SSSA（Soil Science Society of America）の 3 つの分野に別れている．名倉はイネの塩ストレスについて研究しているため，主に ASA，CSSA のセッションに参加した．CSSA のセッションでは土壌を扱った研究は少数であったが，植物側のストレスについての口頭発表があり，とても興味深く参考になった．

4 日に CSSA のポスターセッションにてポスター発表を行った（Photo 2）．ポスターセッションと他の土壌物理関連の口頭発表の時間が重なっており，見に来て下さった方は少なかった．しかし，土壌学以外の作物の研究者らから植物のデータの解析方法についてアドバイスを頂くことができた．また，土壌学以外の研究者から自分の研究はどう映るのかを知ることができ良い経験となった．（名倉）

片野は 3 日に ASA のポスターセッションにて「水田におけるメタン濃度と炭素安定同位体比の変動」と題して発表を行なった（Photo 3）．この研究は学部 3 年から今までに行った研究活動の集大成であるため，世界の研究者からどのような評価を受けるのか，緊張して発表に臨んだ．発表中は多くの研究者から君の研究は面白いとコメントを頂きとても嬉しかった．世界の著名な研究者達が研究内容に興味を持ち，人によっては握手を求めてくれたことに感激した．さらに ASA から 2 等のポスター賞を頂くこともでき，今までの研究活動の苦労が報われる思いであった．参加したセッション（Greenhouse Gas Emission from Agriculture）の発表内容は水田，防風林，バイオ燃料作物など様々な環境の炭素・窒素循環の解明を目的とした CO_2，CH_4，N_2O などの温室効果ガス（GHGs）放出量を調査した発表が大半を占めていた．安定同位体を用いて GHGs 放出過程の調査を行なった研究は私のポスターの他に見当たらなかった．そのため，安

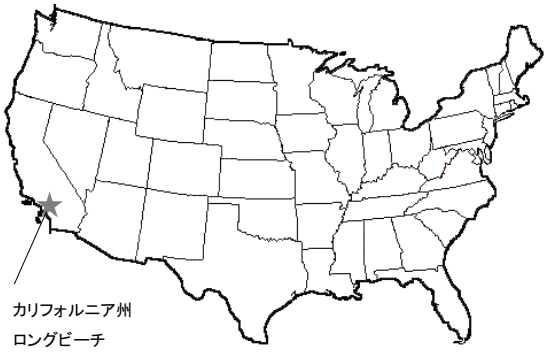


Fig. 1　学会開催地．

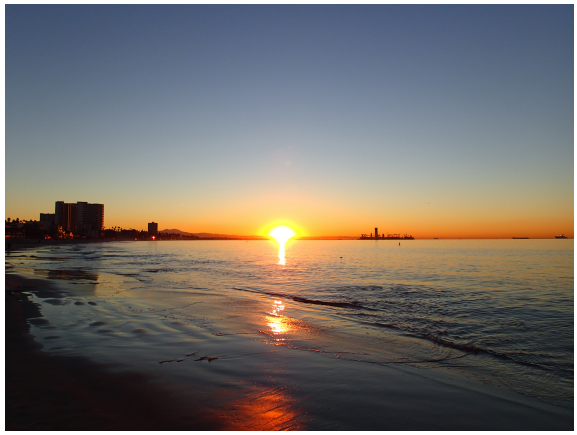


Photo 1　ロングビーチから臨む朝日．

[1] 明治大学　大学院農学研究科
2014 年 12 月 20 日受稿　2015 年 2 月 23 日受理

定同位体を用いた解析を行なったことが評価されたのだと思う．ASA のセッションで行われている GHGs 測定の研究と協力すれば土中ガスの動態と放出されるガスフラックスの関係についての研究がより発展できるのではないかと思った．発表時以外は口頭発表を聴いた（Photo 4）．ASA，CSSA，SSSA と 3 つの分野が集まっているため内容が多様で自分の視野が広がりとても面白かった．企業ブースでは土壌物理試験器やセンサー，ガス分析器，農業機械など様々な器具が紹介されており夢中になって見学した． 学会後は，日本の土壌物理学会の先生やアメリカに留学中の先輩方と食事をしながら，研究だけでなくアメリカでの生活など様々なお話を聞くことができ，楽しい時間を過ごすことができた．卒業し就職する私だが，ASA, CSSA & SSSA International Annual Meeting に参加できたことは私の今後の人生を豊かにしてくれるすばらしい経験であった．（片野）

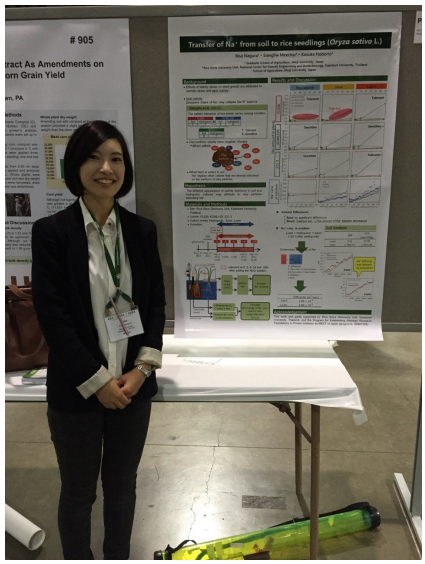


Photo 2　ポスター発表の様子（名倉）．

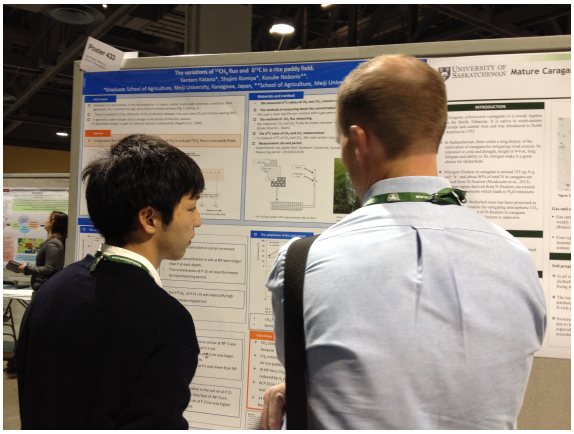


Photo 3　発表中の様子（片野）．

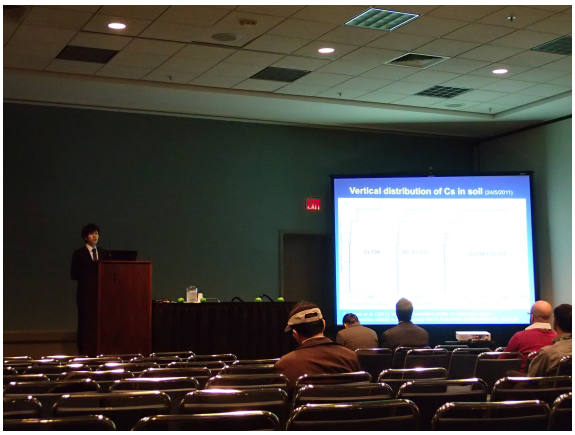


Photo 4　口頭発表の様子（鈴木, 東京大学大学院）．